

中長期目線で米ハイテク株の行方を考える

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 年初来で米ハイテク株は大幅安

5月13日の米国株市場で、ハイテク株主体で構成されるNASDAQ100は前日比3.7%上昇と大幅高しました。ただし、米ハイテク株は、①インフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締め加速懸念を背景とした金利上昇や、②EPS（1株当たり利益）成長率の鈍化、などが重しとなり、年初から大きく下落しています（右上図）。

S&P500情報技術株指数の52週高値からの下落率は23.7%、同コミュニケーション・サービス株指数の同下落率は31.0%（ともに5月13日時点）となっており、S&P500種株価指数の同下落率である16.5%を大きく上回っています。今後も米ハイテク株の軟調な展開は続くのでしょうか。

ポイント② 再度利益成長へ回帰する公算

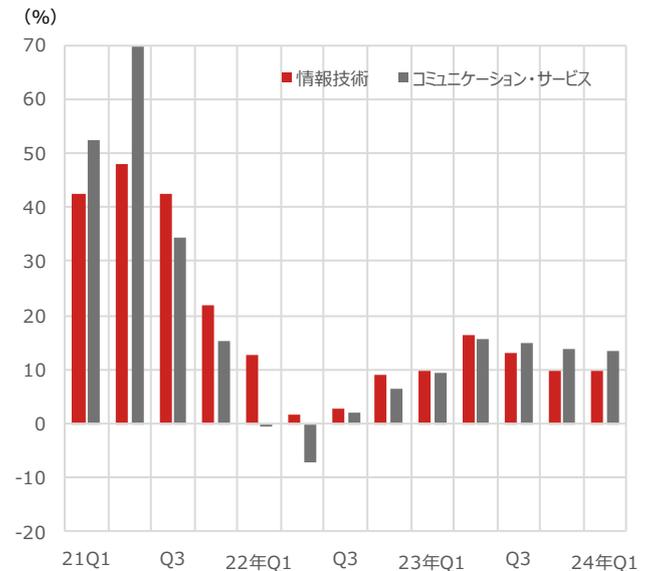
株価は長期的に利益に取れんする傾向が強いことを考えると、米ハイテク株の先行きをみる上で重要なのは業績動向です。米ハイテク株は高い利益成長を背景に2021年は堅調な動きとなりましたが、その後は勢いが弱まり、2022年Q2（4-6月期）までは、米ハイテク株の収益環境は厳しい局面が続きそうです（右下図）。しかし、2022年Q3（7-9月期）以降は、利益成長軌道に回帰するとみられます（同図）。また、PER（株価収益率）など業績面からみたバリュエーションで見てもかなり修正が進んでおり、割高感が解消されたことは一定の支援材料といえます。株価は将来を織り込むとの前提に立つと、米ハイテク株を再評価する局面は近づきつつあると考えられます。

S&P500情報技術株とコミュニケーション・サービス株指数



期間：2021年1月4日～2022年5月13日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500のIT業種のEPS前年同期比増減率



期間：2021年Q1（1-3月期）～2024年Q1、四半期
・2022年Q1以降は5月13日時点のBloomberg予想
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。